

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

取組を進めるに当たり困難であった事例について

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

《人社系》

●大阪市立大学文学研究科

「国際発信力育成インターナショナルスクール」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

インターナショナルスクール集中科目に招聘予定の講師が突然来日できなくなり、集中講義の開講が危ぶまれた。

(苦労したこと、困難であったこと具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

遠隔同時通訳用に購入したテレビ会議システムにより、韓国の大学と回線を結び、遠隔講義をすることができた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

インターナショナルスクール日常化プログラムも含め、テレビ会議システムを利用することにより、海外の連携大学と遠隔国際セミナーを行う可能性が確認できた。

●東洋大学経済学研究科公民連携専攻

「公民連携人材開発プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

インターネットを使った遠隔教育を導入したが、運用が不安定なこともあった。

(苦労したこと、困難であったこと具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

インターネットであるため利用者の環境によって大きく左右され、利用者との回線が切れたり画像がフリーズしたりした。場合によってはその復旧のため一時講義を中断せざるを得ないこともあった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

講義の運営をネットの負荷を下げるような工夫（ファイル容量を小さくするなど）を行って、ほぼ安定した。専用線は高価なためとても使えない。費用対効果に優れているイン

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

ターネットに勝るものはないので、欠点がある程度認めてできるだけ運用を改善することにした。

●龍谷大学法学研究科法律学専攻

「NPO・地方行政研究コース」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

コースの必修科目である「NPO・地方行政特別演習」は、所属院生を2グループに分け、法学部・経済学部所属の教員が計2名で指導するゼミ形式の演習であるが、通常は京都駅前サテライトで実施している。しかし、平日の夜間の時間帯のため、社会人院生が出席しやすいよう本部キャンパスとサテライトの両方での参加を可能にするために遠隔講義システムを試験的に導入した。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

教員と院生のやりとりを重視したインターフェイスか、会議を中継するようなインターフェイスか、どちらも円滑にできるような機種とソフトの選定(予算も含め)が困難であった。結局、通常の「テレビ会議システム」ではなく、プレゼンテーションソフトも共有できるようPCを利用した「遠隔講義システム」を導入したが、音響面で時差が生じたり、事前にインターネット上にアップしておかなければ資料が共有できない等の不便が生じた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

今後は、資料共有に必要以上の負荷をかけず、遠隔でのやりとりがスムーズな「テレビ会議システム」の再導入について、学内的に検討されている。資料の準備については、事前に参加者にメールで送付するなどの対応となる。

《理工農系》

●神戸大学システム情報学研究科計算科学専攻、工学研究科

「大学連合による計算科学の最先端人材育成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

4大学による共同で計算科学の教育を実施するために、TV会議システムやe-Learningシステムの有効活用を試みた。TV会議システムによる講義では、離れた受講生の集中力の持続や、e-Learningの自主的な利用への促進が課題であった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

TV会議システムやe-Learningシステムを利用した教育の知識が不足していたため、具

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

E. 学習・研究環境の改善

④ICT技術を利用した遠隔教育の推進

体的な工夫に欠けていた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

TV会議システムやe-Learningシステムなどをすでに活用している大学から、利用法などの修得が重要と考え、現在、情報の収集は図っている。また、TV会議システムやe-Learningシステムなどの経験を積むことも大切と考え、新たな講義の開講を準備している。

《医療系》

●岡山大学医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻

「医療系大学院高度臨床専門医養成コース」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

学生用の電子ポートフォリオシステムに加えて、学務支援システム、教員支援システムを構築し、事務系職員や教員の作業効率を向上させるための大学院機能の電子化を積極的に進めた。また、研究方法論基礎と研究方法論応用の授業内容については、授業風景をビデオでプレビューする機能を電子ポートフォリオシステムに加えることにより、学生の科目選択を助けるための情報提供を行った。しかし、歯学系は完全実施されたが、その学務の複雑さから医学系に向けて電子化を拡充することが取組実施期間内では難しかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本ポートフォリオシステムは、本取組に特化した形で臨床専門医コースを中心に構築されている。従って、本格実施に向けて歯学系や医学系の一般コースを含めた大学院全体に拡充しなければ、徹底した実施が難しい。徹底した実施に向けた努力をしなければ、紙ベースの旧体然とした学務システムに後戻りする。現在は、歯学系の臨床専門医コース、一般コースのみで運用を開始して問題点の抽出作業を行っているが、医学系、薬学系への応用が遅れていることは否めない。その理由は、学系間で学務の管理が非常に複雑で、これを全部電子化し、間違いのない運用を行うためには、人的、経済的資源とともに、時間が必要であったからである。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

歯学系の十分な試用を経て、医学系の臨床専門医コースや一般コースに向けて拡充する必要がある。このためには追加投資とこれを運用するための人的資源が必要である。また、本年は薬学系の6年化に伴う博士課程の開設時期に当たる。この薬学系の臨床実習に対応

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

するためには、さらに大学本部の経済的支援が欠かせないため、学長裁量経費〔学内教育 COE 経費〕によるサポートを頂いている。